

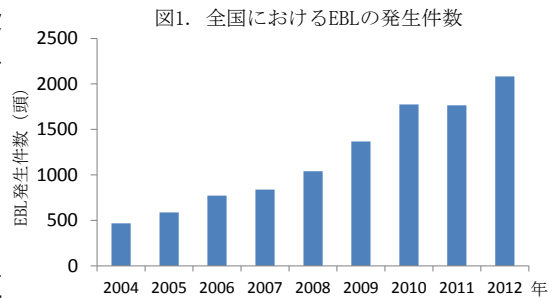
# 平成27年度 みやざき地域志向教育研究経費 概要

所属部局等	代表者
農学部	関口 敏
対象となる領域	地域志向教育研究経費区分
地域志向研究領域	地域課題解決型
プロジェクト名又は研究名	
牛白血病の持続可能な監視プログラムの開発	

## 概要説明

### <プロジェクト又は研究の必要性及び目的>

地方病性牛白血病(EBL)は、牛白血病ウイルス(BLV)の感染によって引き起こされる牛の白血病である。BLVは血液を介して牛に感染し、持続感染する。本疾病に対するワクチンや治療法はなく、近年EBLの発生件数が増加の一途を辿っている(図1)。と畜場では健康な家畜に由来するものを食肉に供するという考えから、EBL発症牛は全廃棄となる。またBLV持続感染牛は免疫能の低下による易感染性を示し、様々な複合感染症を発症する危険性がある。さらに、肉質の低下や繁殖成績への影響も懸念されていることから、**肉用牛生産にとっては特に深刻な問題となっている**。BLVの防疫対策として持続



感染牛の摘発淘汰が有効であるが、補償制度がないため経済的な損失が大きく、現実的に難しい。そのため、本疾病のコントロールには持続感染牛から非感染牛へのウイルスの伝播を防ぎ、新たな感染牛を発生させないことが肝要である。しかし、農場内でのウイルス対策が完全であっても、外部からの牛の導入等により農場間でウイルスが伝播するリスクがある。そのため農場レベルのみならず、地域レベルのBLV対策が必要である。我々は平成26年度みやざき地域志向教育研究経費「牛白血病 清浄の町創造プロジェクト」において、延岡家畜保健衛生所と共同で五ヶ瀬町を含む西臼杵郡の地域レベルのBLV対策に取り組み、全国で初めて郡内全戸の全頭検査(8,000頭以上)を実施した。これにより西臼杵郡内のBLV感染牛を全て把握することに成功した。この成果は平成26年度九州ブロック家畜保健衛生業績発表会で報告され優秀賞を獲得した。現在は持続可能なBLVの防疫対策を目指して、延岡家畜保健衛生所と共同で研究を進めている。具体的には、郡内における感染状況を確認するための定期的な検査方法(診断方法、検査頻度、検査対象農場など)や検査体制の樹立、感染牛の取扱い方法、新たな感染牛が発生した場合の対策などである。そこで本研究は、五ヶ瀬町を含む西臼杵郡における持続可能な監視プログラムの開発を目的とする。